

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区新砂3-3-11
施設名	新砂保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

光と影

〈テーマの設定理由〉

6月上旬、5歳児クラスの子どもたちがベランダに差し込んだ西日にアクリルで出来た玩具を照らしていた。そこに映し出される影の形や色の美しさに興味をもち、夢中になって遊ぶ姿があった。この遊びがきっかけとなり、光や影の遊びが広がっていった。また、その様子を見た他クラスの子どもたちも興味を示し、各クラスで光と影の遊びを楽しむ姿が見られるようになった。

2 活動スケジュール

●幼児クラス

【6月】

・年長児がベランダに差し込む西日にアクリル玩具を当て、映し出される影を見て遊び始める。その光景を見て、3歳児・4歳児クラスの子どもたちも光と影の遊びに興味や関心をもち、遊び始める。

【7月～10月】

・誕生会でシルエットクイズをすると、影絵遊びに興味をもつ。影絵を楽しめるようにスクリーンを設置すると、そこに子どもたちが集まり、光を当てる人・影絵を作る人・鑑賞する人に分かれて遊びが広がっていく。

【11月～3月】

・懐中電灯やライトを使用し、友だちと光と影の世界を楽しむ姿が見られる。また、暗い部屋を用意すると、そこに異年齢児が集まって遊びを楽しむ姿が見られた。

●乳児クラス

【7月～3月】

・各クラスにて太陽の光やライト、アクリル玩具等を使って光の動く様子を目で追ったりしながら遊びを楽しむ。

・段ボールでトンネルを作り穴を開けて、セロハンを貼り、懐中電灯で光を差したときの様子を見て楽しむ。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

【準備した道具・素材】

・アクリル玩具・ライトテーブル・スクリーン・ライト・懐中電灯・書画カメラなど

【環境構成】

・子どもが興味や関心をもてるようなきっかけづくりを行い、遊びへと繋げていく。

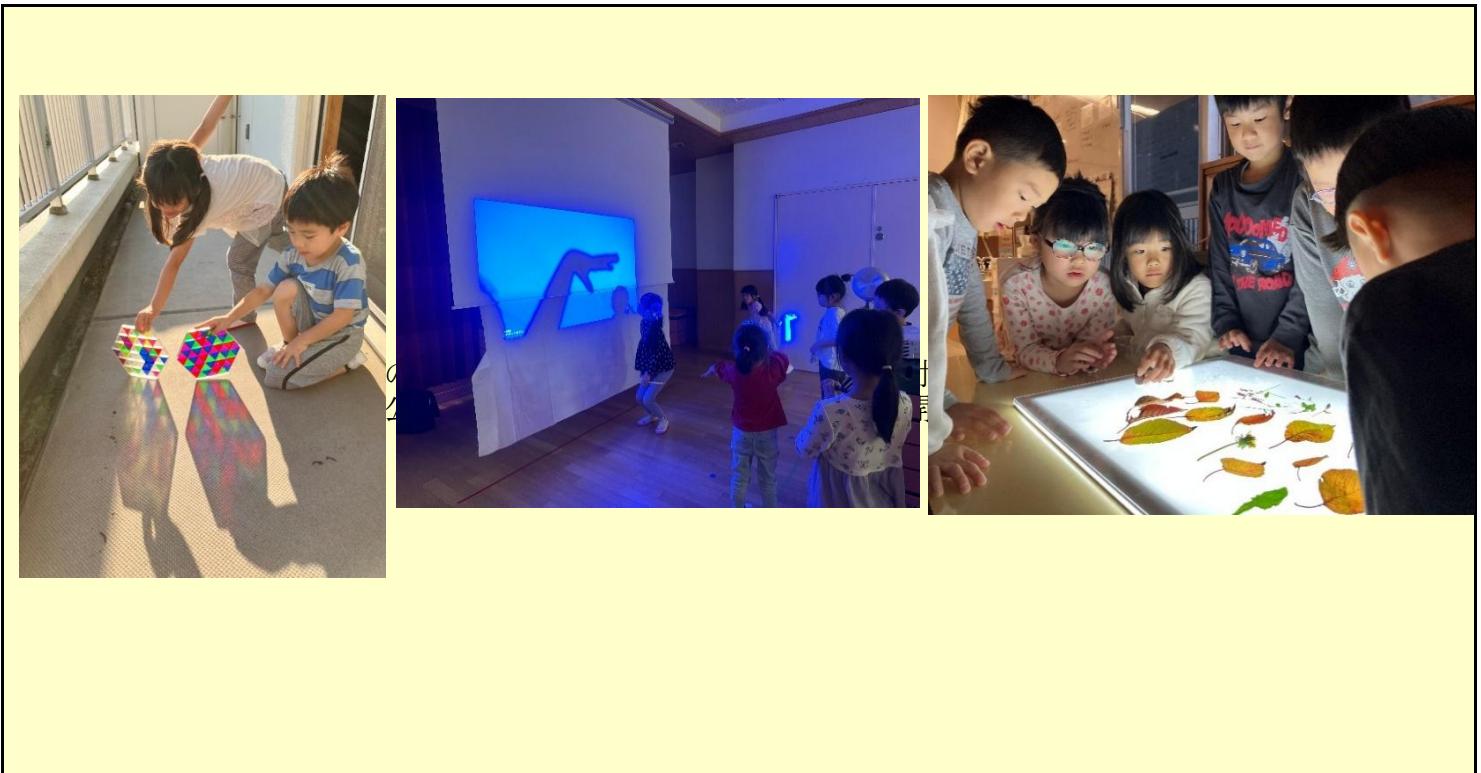
4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

年長児が光と影の遊びを展開していく中で、他クラスもその遊びに興味や関心を広げていった。幼児クラスは、光と影の世界を存分に楽しめるよう、暗い部屋でライトを照らして遊んだり、スクリーンを使って影遊びを楽しんだりした。乳児クラスは、手作りのサンキャッチャーモビールを保育室に吊るして、光を部屋に取り込むと、反射する光に気付いて近づいたり指差しをしたりする姿があった。また、カラーセロハンで作った眼鏡や、アクリル玩具を覗きこんだり、光に当てたりして、色が変わって見える光景を楽しんだ。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

・5歳児が太陽の光にアクリル玩具を当てて遊んでいる姿を見て、3・4歳児はその遊びに惹きつけられていった。日常的に異年齢児同士の関わりが多いことから、5歳児は年下の友だちのことをすぐに受け入れ、面白い遊び方を教えてあげる姿があった。その中で、やり方を教え合う姿や、順番や決まりを守る姿などが子どもたちの中で育っていったと感じる。遊びが盛り上がっていくと、今度は年下の子どもたちも主体的に遊びを創り上げようとする姿が見られるようになり、園全体で光と影の遊びを取り入れて楽しんだ。乳児クラスは、サンキャッチャーモビールから光が取り込まれると、そのキラキラとした光に気付き、指差しをしたり、手で掴もうとしたりして、不思議な現象に自ら関わろうとする姿があった。保育者は、子どもが感じたことに共感的に関わり、子どもの興味や関心に合わせた環境設定や、遊びを豊かにする言葉掛けや問いかけをして関わっていった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

・5歳児クラスの光遊びから始まったことがきっかけで、それを見ていた3、4歳児や乳児たちも興味をもち始め、見よう見真似で遊び始めた。光が放つ様子やそこから生まれる影の部分に子どもたちは夢中になって遊んでいた。保育者は様子を見ながら必要な玩具や用具を用意して、更に遊びが発展できるように手助けをしてきた。子どもたちが何に興味を示し、何に関心をもって取り組んでいるのか、保育者が丁寧に観察することで、子どもたちからの発想は更に豊かになるのだと感じた。それと同時に保育者自身も子どもと同じ目線で学び続けなければ、子どもの探求心は芽生えないと思った。

